

施設の安全対策

ホームの安全対策

① 非常停止ボタン



非常停止ボタン

列車との接触事故を防ぐため、東急線 83 駅のホーム※に非常停止ボタンを設置しています。ボタンを操作すると、付近を走行する列車は異常を知らせる信号を受信し、運転士は列車を緊急停止させます。お客さまはボタンを操作しても絶対に線路へ降りないでください。

※目黒線、世田谷線を除く

もしも線路に人が転落したら、非常停止ボタンを押して通報してください。

② 点状ブロック



内方線付き点状ブロック

目の不自由なお客さまに安全にご利用いただけるよう、ホーム上にホームの端を示す点状ブロックを設置しています。このうち、ホームドアが設置されていない駅には、どちらがホームの内側かわかるよう点状ブロックの内側に線状の突起（内方線）がある内方線付き点状ブロック（ホーム縁端警告ブロック）を設置しています。



③ 駅係員よびだしインターホン・防犯ボタン



駅係員よびだしインターホン



防犯ボタン

駅係員、警備員によるお手伝いが必要となった際に通報いただける、駅係員よびだしインターホンや防犯ボタンを、ホーム上やトイレに設置しています（押しても列車は止まりません）。

駅構内で不審物や不審者を発見した時や、トラブル発生時、また具合が悪そうなお客さまを見かけた際に押してください。

④ ホーム先端部塗装



ホームの先端部をオレンジ色に塗装し、線路転落や、列車とホームとの隙間への転落を防ぐため、お客さまへの注意喚起を行っています。

⑤ ホームドア



お客さまがホームから転落したり、列車と接触したりする事故を防止するため、東横線・目黒線・東急新横浜線・田園都市線・大井町線の全駅にホームドアを設置しています。また、池上線・東急多摩川線の全駅には、センサー付固定式ホーム柵を設置しています。

⑥ 転落防止ゴム



お客さまが足を踏み外して列車とホームとの隙間に転落しないように、ホームの側面に隙間を狭めるための転落防止ゴムの設置を順次進めています。

また、ホームに足元注意ステッカーの表示を行っています。



⑦ 隙間転落注意喚起サイン



過去に、ホームと車両の隙間への転落が発生している箇所やその周囲に「こども隙間転落防止プロジェクト」のオリジナルキャラクター「スキマモリ」のサインを貼り付け、注意喚起を行っています。

⑧ 転落報知器

ホームの下に転落報知器を設置しています。万が一お客さまがホームと列車のすき間から転落すると、センサーが作動し駅係員や乗務員に警報音で知らせます。



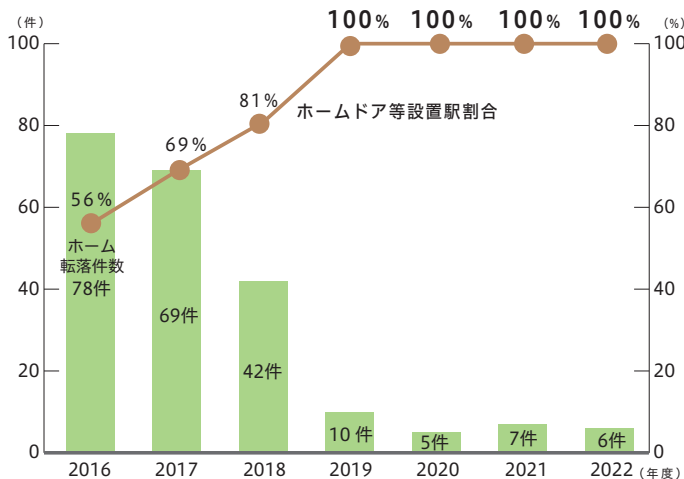
全駅へのホームドア設置

2019年度末までに東急線全駅※にホームドア・センサー付固定式ホーム柵の設置を完了させ、ホーム上の安全性向上、安定運行に大きく寄与しています。

※世田谷線・こどもの国線を除く

▶ホーム転落件数とホームドア等設置駅割合の推移

ホームドア等の設置に伴い、ホームからの転落件数が大きく減少しています。



●安全にご利用いただくための、お客さまへのお願い

より安全にホームドアをご利用いただくために、お客さまへのお願いや注意喚起を、さまざまな形で行っています。

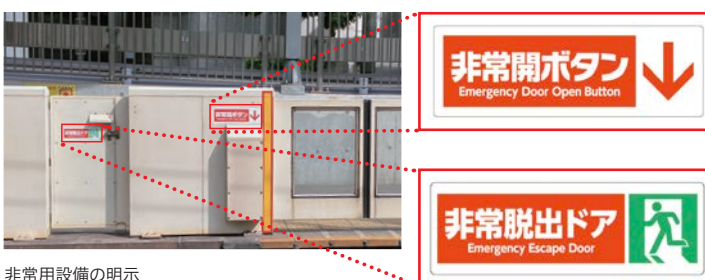
ホームドアから身を乗り出したり、ホームドアに物を立て掛けたりすることによる事故などを防止するため、注意事項をステッカーにして貼付し、お願いと呼びかけを行っています。



ホームドアの注意事項ステッカー

●非常用設備の明示

お客さまに日ごろから、非常用設備を認識していただけるよう、国土交通省のガイドラインに沿ったピクトグラムの明示を順次行っています。



非常用設備の明示

駅構内の安全対策

お客さまに安心してご利用いただけるよう、さまざまな対策を行っています。

●防犯カメラ

駅構内の状況確認や犯罪抑止を目的として、ホーム、改札口、券売機、定期券うりばなどに防犯カメラを設置しています。



駅構内の防犯カメラ

●地下駅の火災対策

国土交通省の基準に基づき、2通路以上の避難通路の確保や、火災時におけるホーム階の排煙のための非常電源設備の設置などの対策を、全ての地下駅で実施済みです。



避難通路（非常口のご案内）の表示を大きく分かりやすくしました

●停電対策

列車運行に必要な電力は、沿線に設置した複数の変電所から供給しており、一部の発電所が停電しても列車の運行は確保できます。また、全ての電力供給がストップし、駅間で列車が停止する状況になった場合でも、車両に搭載したバッテリーにより車内の非常照明や放送設備などは正常に機能します。

地下駅では停電に備えて非常用発電機を設置しており、トンネル内を含めた非常照明や駅放送設備など、防災上必要な機能が確保されています。



停電時に稼働する駅の非常用発電機

●駅係員、警備員などによる安全確認

日ごろから、定期的に駅係員および警備員などが駅構内を巡回し、不審物、施設の不備などお客さまに危険がおよぶ箇所がないか、確認、警備を実施しています。

また、お客さまの流れの変化などに対応し、警備体制の見直しを行っています。

駅構内の総合案内板、駅構内図や駅周辺案内図などの掲示物については、落下を未然に防ぎ、お客さまの安全を確保するため、定期的に目視と触手による点検を実施しています。



駅構内の巡回



駅構内の掲示物

車両・車内の安全対策

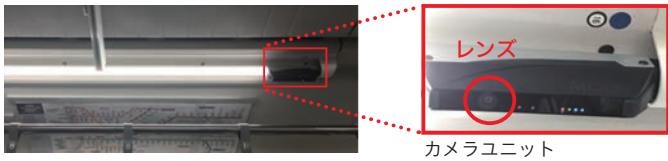
お客さまに安心してご乗車いただけるよう、さまざまな安全対策を行っています。

● 車内防犯カメラ

LED蛍光灯一体型の防犯カメラを全車両に導入しています。遠隔地からでも映像を確認することが可能です。全車両への導入を通して、車両内のセキュリティ向上および車両内トラブル発生時の対応の迅速化を図っています。

※プライバシーの保護について

防犯カメラを設置している車両であることをお客さまへ周知するステッカーを、車内に掲出しています。記録映像の閲覧については、閲覧できる社員を限定するなど、関係法令や社内規程に則り厳重に管理します。



● 引き込まれを防止する ドア素材

2020系、3020系、6020系などの新造車両には、ドア自体にすべる素材を採用しており、開扉時の引き込まれを防止しています。また、引き込まれに加え、乗降時のはさまれも防止するため、乗降口端部と戸先を容易に認識できる黄色いラインの注意喚起シールも貼付しています。



● ドア引き込まれ 注意喚起ステッカー

ステンレス製のドアには、すべる素材を使用した車内ステッカーを貼付しており、イラストによる注意喚起も実施しています。



● ガラス破損のリスク低減策

車両ドアは、ドアガラス破損防止のため強化ガラスおよび複層ガラスを使用しています。また、一部の車両には割れたガラスが飛散しないように透明の飛散防止フィルムを貼り付けて安全性向上を図っています。飛散防止フィルムには夏場の遮熱、冬場の断熱にも高い効果があり、空調消費電力量を削減し省エネ効果もあげています。



飛散防止フィルム

● 車内非常通報ボタン

具合の悪いお客さまや車内の異常を乗務員に知らせる装置で、車両連結部付近や窓の横、車いすスペースに設置しています（位置は車両により異なります）。



※東横線・田園都市線、大井町線の6000系と6020系、9020系、目黒線、東急新横浜線、池上線、東急多摩川線、世田谷線、こどもの国線では乗務員と通話することができます。



ご乗車中、周囲で具合の悪いお客さまがいらっしゃる場合や、車内で異常が発生した場合に押してください。

● 緊急ブレーキ装置

万が一、運転士の体調が急変したときに安全を確保するため、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキがかかる装置を全車両に搭載しています。

● 誤開扉防止策・列車の転動防止策

列車が走行中、もしくは動き出した後に扉が開くことがないよう、誤開扉防止策と列車の転動防止策の2つの対策を行っています。

誤開扉防止策とは、「列車の発車直後に誤ってドアを開ける操作をしてもドアが開かない仕組み」で、全線の車両に導入しています。

列車の転動防止策とは、「ドアが開いた状態で運転士が誤ってブレーキを緩めてしまった際に列車が転動しない仕組み」で、全線の車両※に導入しています。

※こどもの国線を除く

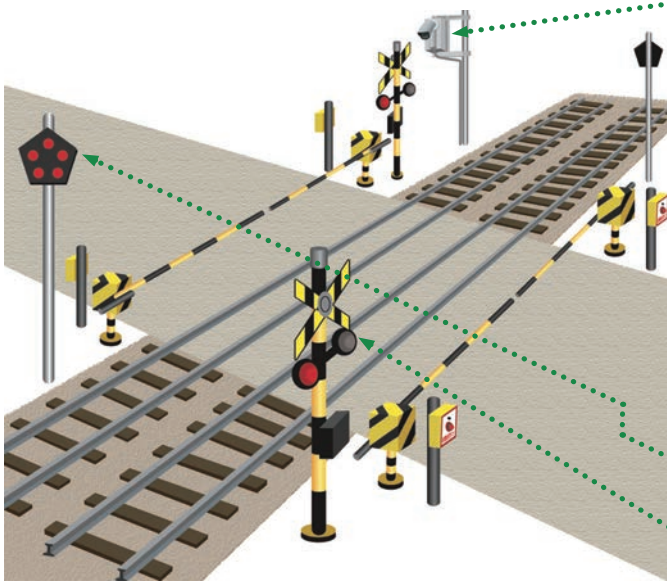
安全MEMO

電車のドアに手やかばんをはさんでも、ドアは自動では開きません。ケガをされる可能性があり大変危険です。
かけこみ乗車はおやめください。



踏切の安全対策

踏切での事故を防ぐために、さまざまな対策を行っています。



踏切監視カメラ

踏切事故の抑止手段、事故発生時の状況確認手段を確立する必要性が高まっていることから、全線※で踏切監視カメラを設置しています。

※こどもの国線を除く



非常ボタン



踏切内に人や車が立ち往生してしまったときなど緊急の場合に、非常ボタンを押すと、特殊信号発光機が赤く点滅して接近する列車の運転士に異常を知らせます。全ての踏切に設置しています。

特殊信号発光機



また、東横線・目黒線・大井町線・こどもの国線では、ATCと連動しているため、接近する列車を自動的に減速させます（田園都市線・東急新横浜線には踏切はありません）。



非常ボタンは、踏切内に人や車などが立ち往生しているなど緊急の場合に押してください。

3D式、光線式踏切障害物検知装置

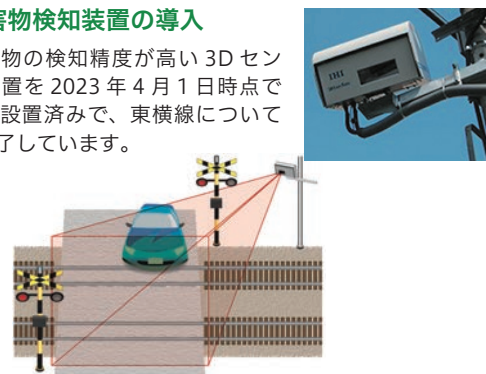
踏切障害物検知装置は、自動車などが踏切で立ち往生した場合にセンサーが検知し、接近する列車の運転士に異常を知らせる信号を送る装置です。当社では、2021年7月に自動車通行禁止の踏切を含む全135カ所の踏切※に設置を完了しました。

※世田谷線・こどもの国線を除く

▶3D式踏切障害物検知装置の導入

当社では、障害物の検知精度が高い3Dセンサーを使用した装置を2023年4月1日時点で107カ所の踏切に設置済みで、東横線については100%設置が完了しています。

引き続き3D式踏切障害物検知装置の導入を行っています。



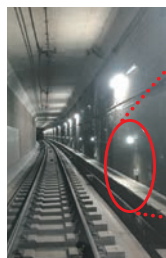
3D式踏切障害物検知装置の検知イメージ

地下トンネル区間の安全対策

列車が地下トンネル区間で緊急停止した際、安全に避難できるように対策を行っています。

●トンネル照明の設置

お客さまが避難のためにトンネル内を歩行する際、足元を確認しやすいようトンネル区間全てに照明を設置しています。



トンネル照明

●蓄光看板

トンネル区間において、蓄光式の案内板を設置しています。これにより異常発生時に照度が限られた状況においても隣駅までの距離が分かり、お客さまを安全に駅まで誘導できます。

〈設置区間〉

東横線：渋谷駅～代官山駅間、東白楽駅～横浜駅間
目黒線：目黒駅～洗足駅間
東急新横浜線：新横浜駅～日吉駅間
田園都市線：渋谷駅～二子玉川駅間、つきみ野駅～中央林間駅間
池上線：戸越銀座駅～旗の台駅間
東急多摩川線：多摩川駅付近～沼部駅間



蓄光看板



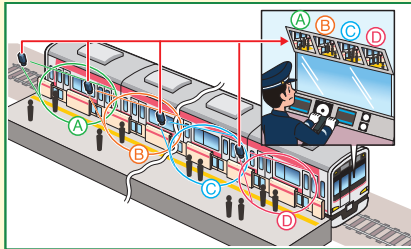
一部の踏切道に導入している全方位警報灯

ワンマン運転時のさまざまな安全対策

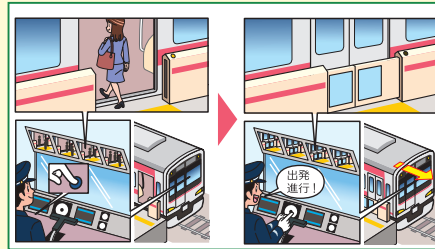
東急線は、目黒線、池上線、東急多摩川線でワンマン運転を実施しており、2023年3月から、目黒線から直通する東急新横浜線にワンマン運転を拡大しました。また、東急新横浜線との直通運転にあわせて、東横線でも実施しています。

ワンマン運転時も安全に運行できるよう、ホームドアや信号システムなどの設備に加え、運輸司令部や駅からの応援体制を含めたバックアップ体制の構築など、安全対策に取り組んでいます。

● 運転席には、お客さまの乗降が分かるモニターが設置されています



ホームに設置したカメラでお客さまの乗降を撮影し、運転席のモニターに投影します。



運転席のモニターを確認して運転士がドアの開閉を行います。

● 車内非常通報ボタンは運輸司令部ともつながっています

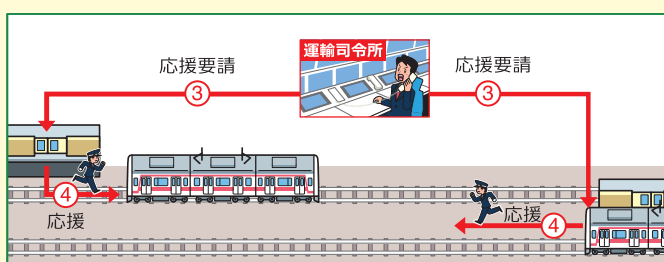


車内非常通報ボタンは、1車両に1～4カ所設置されています。ボタンを押すと運転士が応答します。運転士が応答できない場合は運輸司令部に自動で転送され、運輸司令部の司令員が応答します。

● トラブル時は、運輸司令部から車内放送や応援者要請を行います



トラブルなどでやむを得ず駅と駅の間で停車した場合、運転士または運輸司令部から車内放送で状況をお知らせします。



避難誘導が必要な場合、最寄り駅などから応援者が駆け付けます。運輸司令部は、必要に応じて警察、消防に対応を依頼します。